

クマタカの環境保全措置を実施し、巣立ちを確認

【概要説明】

足羽川ダム建設事業の実施区域では、環境省のレッドリストで絶滅危惧種(カテゴリーEN: 絶滅危惧 I B 類)に指定されているクマタカが生息しており、クマタカの繁殖を阻害しないように環境保全措置を実施しながら工事を進めている。

令和4年は、工事箇所の近距離(巣から約250m)でクマタカの繁殖活動が確認されたため、モニタリング委員の助言をえながら、クマタカの雛の状態に応じて大きな音が出る地山岩掘削(大型ブレーカーの作業)を9日間(R4.5.31~R4.6.8)、一時見合わせた。

また、巣から約8m離れた樹上に設置した CCD カメラで巣内の様子を監視しながら大型ブレーカーの作業を進めた。

結果として、クマタカの雛は順調に成長し、8月14日に枝移りするのが見られ、その後、巣立ちを確認することができた。

【クマタカの保全措置】

令和3年12月より、CCDカメラの録画データを約10日毎に回収し、クマタカ繁殖状況のモニタリングを実施。その結果、令和4年4月5日に抱卵開始を確認した。

【クマタカの雛の成長記録】



5月23日：雛がビデオ映像で初確認される。巣上は雌成鳥。



6月1日：雛(10日齢)



6月10日：雛(19日齢)



6月13日：雛(22日齢)



6月16日：雄(左) 雛(中)(25日齢) 雌(右)



6月22日：雌成鳥と雛(31日齢)



7月1日：羽ばたき練習する雛(40日齢)



8月14日：幼鳥の枝移りを確認(84日齢)

項目	令和4年				
	4月	5月	6月	7月	8月
クマタカの生活サイクル	抱卵期		巢内育雛期		巢外育雛期
繁殖状況	令和4年は積雪量が多かった影響で産卵時期が例年より約3週間程度遅れ、雛の成長が遅れた				
	4/5産卵	5/22孵化	8/14枝移り	巣立	
環境保全措置① 地山岩掘削工 (大型ブレーカー作業)	CCDカメラ映像の直接監視でクマタカの様子を確認しながら大型ブレーカーの作業を開始(R4.6.9)				
	孵化直後の抱雛期(雛が大きくなるまで調査頻度を上げて調査実施)				
	環境保全措置① ・クマタカの孵化が確認されたため、抱雛期間初期における地山岩掘削の大型ブレーカーの作業を見合わせた:9日間(R4.5.31~R4.6.8)				
環境保全措置② 工事中の対策等	環境保全措置② ・工事関係者への周知徹底 ・音が反響する栈橋上で作業する場合、重機の下に廃タイヤを配置して騒音低減を実施 ・アイドリングストップを心掛け、騒音抑制を実施 ・CCDカメラによるクマタカ巣の監視				

